

(1) こどもの学校生活について

①分析結果

- 学校に「ときどき行きたくないと思う」が40.4%、「よく行きたくないと思う」が9.4%となっています。「ときどき行きたくないと思う」「よく行きたくないと思う」は、学年別にみると高校生・その他が中学生を上回っています。
- 将来の進路は、中学生、高校生ともに、約80%が大学・短期大学以上の進学を希望しているが、進学したいが学力面や家庭の経済面で難しいという回答も見られます。

②考察及び施策の方向性

- 学校生活は、学習や部活動、友人関係など、こどもが様々な経験を通じて成長していく大切な場ですが、人間関係でのつまずきが学習意欲の減退や不登校、ひきこもりにつながる可能性もあります。学校、家庭、地域が連携して、こどもの充実した学校生活を支援する体制づくりを進めていくことが必要です。

(2) こども・若者の居場所について

①分析結果

- ホットとできる場所は、「自宅の自分の部屋」が最も高く、次いで「自宅のリビング、居間など」、中学生・高校生では「インターネット空間（SNSやオンラインゲーム等）」、19～29歳では「実家」となっています。
- 中学生・高校生が利用できる施設の希望としては、友人との雑談や飲食ができるところ、スポーツができるところ、勉強や読書、パソコンやインターネットができるところ、特に理由もなく過ごすことができるところが、多く挙がっています。

②考察及び施策の方向性

- こども・若者の居場所を整備することは、こども・若者の成長を促すことにつながると考えられるため、若者が気軽に立ち寄り、安心して自由に過ごすことができる居場所の提供を進めていくことが必要です。

(3) ひきこもりについて

①分析結果

- 現在の状況になったきっかけについて、中学生・高校生では「不登校」が最も高く、その他には「病気・障害」「学校を退学した」「家族以外との人間関係がうまくいかなかった」となっています。19～29歳では「病気・障害」が最も高く、次いで「不登校」「家族以外との人間関係がうまくいかなかった」となっています。

②考察及び施策の方向性

- 学生時代の不登校が原因でひきこもり状態が続いている若者もいるため、例えば、オンライン等による相談がしやすい方法の実施等を通じて、ひきこもり状態にあるこども・若者やその家族への早い段階からの支援を進めていくことが必要です。

(4) 自己肯定感について

①分析結果

- 「自分は周りの人から大事にされている」について、中学生・高校生では、「そう思う」が62.8%、「だいたいそう思う」が31.7%となっています。19～29歳では、「そう思う」が55.9%、「だいたいそう思う」が38.0%となっています。
- 「自分が好き」について、中学生・高校生では、「だいたい好き」が39.5%、「好き」が30.1%となっています。19～29歳では、「だいたい好き」が42.3%、「好き」が32.9%となっています。

②考察及び施策の方向性

- 自己肯定感を高めるために、子ども自身が、子どもの権利についての認識を深め、主体的に自分の考えや思いを表現できるようになること、子どもは一人の人間であり、権利の主体であることを大人が理解することなど、すべての子どもにやさしいまちづくりを進めていくことが必要です。

(5) 相談機関について

①分析結果

- 「悩んでいるや困っていること」について、中学生・高校生では、「受験・進路」が35.7%で最も高く、次いで「学校の勉強・宿題」が29.2%、「友だちや先輩との関係」が16.7%となっています。また、「悩んでいることや困っていることではない」は35.3%となっています。19～29歳では、「お金のこと」「自分の将来・進路」が47.0%で最も高く、次いで「仕事・就職」が39.1%、「自分の身体のこと」が22.4%となっています。また、「悩んでいることや困っていることではない」は21.7%となっています。
- 「相談機関に望むこと」について、中学生・高校生では、「親身に聞いてくれる」が59.3%で最も高く、次いで「無料で相談できる」が57.8%、「自分のペースでゆっくりと段階的な支援してくれる」が46.3%となっています。19～29歳では、「親身に聞いてくれる」が60.4%で最も高く、次いで「自分のペースでゆっくりと段階的な支援をしてくれる」が49.2%、「無料で相談できる」が49.0%となっています。

②考察及び施策の方向性

- 地域にある相談窓口の周知を図るとともに、プライバシーの保護や窓口に出向くことが難しい相談者への対応など、潜在化している子ども・若者の悩みごと・困りごとを早期に発見し、対応していくことに関して、民間団体と連携して進めていくことが必要です。

(6) 市への要望や意見表明

①分析結果

- 市の子ども・若者施策への要望として、「経済的な困難を抱えている家庭への支援」、次に、「ホッとできる居場所を提供する」を求める声が多く挙がっています。
- 中学生・高校生では、市に自分の思いを伝えることについて、「そう思う」「ややそう思う」を合わせると37.0%となっています。また、「伝えたい意見はない」が39.0%で最も高くなっています。在籍別にみると、「そう思う」「ややそう思う」を合わせると、中学生が41.3%で高校生・その他を上回っています。19～29歳では、市に自分の思いを伝えることについて、「そう思う」「ややそう思う」を合わせると31.5%となっています。また、「伝えたい意見はない」が36.9%で最も高くなっています。

②考察及び施策の方向性

- 市の子ども・若者施策に望むことは、経済的な困難を抱えている家庭への支援、ホッとできる居場所を求める声が多く挙がっているため、ひとり親家庭への経済的支援や、若者が気軽に立ち寄れ、安心して自由に過ごすことができる居場所の提供を進めていくことが必要です。
- 恒常的に子ども・若者の声や意見を聞く仕組みづくりを進めていくことが必要です。